

南

KOMAZAWA UNIVERSITY AND KOMAZAWA JUNIOR COLLEGE

茨城県同窓会会報 創刊号



おあいさし

会長 松浦 好道

勝田高等学校校長(大宮町) 昭和三十五年文学部卒

同窓会会員の皆様方には、ますます御壮健にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

今年六月の駒澤大学茨城県同窓会設立総会において、多くの先輩諸君をさしおいて会長のご指名を賜り、その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。元より浅学非才の私の任ではないのですが設立準備委員長をお引き受けした関係で「この会が軌道に乗るまでは責任を果たせ」との声に、顧問をお引き受け下さいました大先輩の方々にご指導を仰ぎながら、役員各位のご協力、そして皆様方の絶大なご支援を賜り、この会が単なる親睦団体のみに終わることなく意義ある会に育てて行きたいと思っております。そのためにも皆様方のご意見ご要望等をも一つでも多くお寄せ下さることをお願い申し上げます。なお、まだご加入いただけない同窓生の方にもお誘いいただき、同じキャンパスで学んだ仲間として新たな出会いを求め、共に手を携えて交流の絆を深めて行きたいと思っております。



駒澤大学茨城県同窓会交流パーティー

大成功!! 第一回設立総会

駒澤大学茨城県同窓会、設立総会は、去る六月二十二日、土浦市「ホテルマロウド筑波」に於いて、約二百五十名の同窓生が集まり盛大に開催されました。この会は、駒澤大学、全国の二十六番目の同窓会であり、県内各地区の同窓の有志が一年がかりで、大小四十数回の会議を開き、案内状の作成、出欠席者の確認、会場の手配、プログラム作成とすべて、ポランティア精神で協力し合い、会を作り上げました。

当日は、二部プログラムから構成され、第一部設立総会では、松浦好道氏(昭和三十五年文学部卒、県立勝田高校校長)が初代会長に選出されました。以下、顧問、役員の出会、会則、予算案、事業計画等が満場一致により承認されました。尚、県を代表して橋本 昌知事、開催地土浦市を代表して助川弘之市長にご臨席頂き、御挨拶を賜りました。続きまして、記念文化講演会が開催され、土浦市並びに土浦市教育委員会の後援で、広く一般市民に呼び掛けが行なわれた結果、約五百名の出席で会場は満席でございました。最初に中畑 清氏(元読売ジャイアンツ、駒澤大学OB)による「私の歩んだ野球人生」と言う演題で、大学からプロの世界へと、野球を通して学んで来た事、色々な人々との交流を通しての出会いと感謝、将来の氏の夢などを、熱っぽく、元気がいっぱい、ユーモアたっぷりと語って下さいました。会場の多数の子供たちにも大いに夢を与えて下さり、大好評でございました。そして次に、福岡政行氏(白鷲大学教授、元駒澤大学助教)により「ポランティアのすすめ」という演題で、先生が今実際に行っているポランティア活動の状況、又、必要性をわかりやすく楽しく話して下さいました。最後に藤井 暁氏(テレビ朝日アナウンサー、駒澤大学OB)の司会により、福岡先生、中畑氏が加わり、チャリティーオークションが行なわれました。各界からの御賛同と御協力によりまして、プロ野球界、Jリーグ界、芸能界から一流スポーツ選手、有名女優、ニュースキャスター、有名歌手等のアツと驚く様な品々が、約五十点が提供され、会場は熱気の渦に包まれました。収益金は、その場で「カンボジア」に学校を設立「阪神淡路大震災復興」「土浦市社会福祉事業」に寄贈されました。その様子は読売新聞他、多数マスコミにも紹介されました。第二部の交流パーティーでは、藤井 暁氏の司会により松田総長の御祝辞に始まり、応援指導部ブルーペガサスのチアリーダーによる華麗な演技と軽快な音楽にOB一同感動の拍手を惜しみませんでした。また、本



「お互いの存在」語る 駒澤大 中畑清さんら講演

講演は、一般市民にも公開され、同大会OBで元読売ジャイアンツの中畑さんは、「私の歩んだ野球人生」と題し、自らの野球への思いがけず、長嶋茂雄さん、野茂英雄さん、松浦好道さん、藤井 暁さん、中畑清さん、中畑清さん、白鷲大学教授の福岡政行さんの講演が行われた。土浦市城北町のホテルマロウドで設立総会が開かれ、県内の同窓生は約三百二十人、すでに県外や海外でも同窓生が訪れた。西地区では同窓会が主催するスポーツコンプレックスの

六月二十三日 読売新聞に総会報告が掲載されました。 六月二十四日 常陽ウィークリーで開催が報道されました。

年箱根駅伝の復路優勝を果たした陸上部に応援のぼり旗、野球部、応援指導部に激励賞が贈呈されました。 大学図書館からお借りした、昭和三十年から現在に至るキャンパス風景を映したビデオが大画面で流れる中、久しぶりに会う友の顔、またここで新しい出会いと、同県人と言うこともあり、世代を越えての楽しい歓談がまるで学生時代にタイムトリップしたように続きました。 最後は、「今回は水戸で二年後笑顔で会いましょう」と言う横断幕の中、全員で声高らかに校歌の大合唱、次回の再会を約束して閉会致しました。 総会の成功は、会員一人一人の「茨城県に同窓会を作る」という熱い思いと必ず目標を達成するという強い決意で結束した委員の努力、大学同窓会の理解とすべての条件がそろった結果であり、一つでも欠けていなければならなかったと思います。 今後、県内約四千名の同窓が新たに会員に加入され、すばらしい交流が生まれ、第二回総会でお会い出来ることを楽しみにしております。

Financial report table with columns for '収入の部' (Income) and '支出の部' (Expenditure), listing items like '会費' (dues), '印刷費' (printing), and '雑費' (miscellaneous).

駒澤大学茨城県同窓会 設立総会収支決算報告

各地区副会長 あいさつ



県東地区 田中大孝氏 県西地区 梁谷泰雄氏 鹿行地区 高橋量光氏 県南地区 一色則武氏

◆県北地区副会長



西室 隆明 (日立市)
昭和三十三年商経卒

この度の設立総会を盛会に迎えられましたこと心からお喜び申し上げます。また、当会設立につきまして、準備委員会の皆様方には多大なるご尽力を頂き、誠にありがとうございます。心から厚く御礼申し上げます。

さて、自己紹介と言う事ですが、出身は山梨県、本県との関係を今思い出せば昭和二十七年夏の甲子園大会で水戸商に完敗、高校時代教員を受けました砂押さん(水戸商立教大―日本鉱業)との縁もありまして昭和三十三年日本鉱業(現ジャパコエナジー)入社。日立工場皮切りに大分、大阪、北海道、昭和五十六年再度日立に転じ本年六月退任、その間、日立―大分と野球に青春

を賭け都市対抗にも五回ほど出場させて頂き、誠に恥ずかしい事ですが卒業以来本学のことなど何一つ思い出さず事もなく今日に至る、この度、当会設立の連絡を受け賜り本県の同窓生も既に四千名になろうと唯々驚きと申し上げるしかございません。この度この大組織の一員として拝命を受け賜りその責務に対し心痛いたしておる所でございます。当会の今後益々の発展に対し微力ながら何か一つでもお役にたてばと考えておりますので皆様方の益々のご支援ご協力をお願い申し上げます、各位の益々のご健勝ご繁栄をご祈念申し上げます。

◆県東地区副会長

田中 大孝 (笠間市)
水城高等学校教諭
昭和三十九年文学卒

駒澤大学茨城県同窓会設立総会も成功裡に終了することができ本当にお目出度う御座居ます。

振り返ってみると、短期間の中で、よくあれだけ盛大に出来たものと、ただただ感心するばかりです。この陰には、県南、県西地区の駒大パワーがあったからだと思います。

私にこの話が舞い込んで来たのは、昨年の十一月の中ごろ、県南の宮下さんから電話を戴き、「駒大茨城県同窓会を作りたいので、県東、県北地区をまとめてほしい」との事であった。まるで雲をつかむような話であり、まさにこの様なことを「晴天の霹靂」とも言うのだろうと思えます。

数少ない駒大出身者に電話を入れ、いろいろと情報を集めているうちに、茨城町の玉淵さんより、以前県人会のようなものがあつたことを聞き、そのときに前茨城学園々長、南波先輩、勝田高校々長、松浦先生を知ることが出来ました。

事情をお話したところ心よくご協力を戴けるということで先ずは安心。後は、松浦、南波両先輩におまかせしてしまつた状態で、総会がこの様に盛大に催すことが出来ましたので本当に安心致しました。

次回は、二年後、水戸で行われるとの事、今度は県東、県北、鹿行もまとも、少しもお役に立てるよう、今から準備に取りかからねばと心引き締る思いです。最後に駒大茨城県同窓会の益々の発展をご祈念申し上げます。

◆県南地区副会長

一色 則武 (土浦市)
割烹 一色園
昭和三十九年商経卒

「光陰矢の如し」東京オリンピックの年に卒業して早や三十数年、旧友暖めたく懐古的な今日思いもしなかつた母校の同窓会発足に至り心よりお喜び申し上げます。会員、並びに役員の皆様のご心が一つになり目的達成の為の多大なる御尽力に感謝する次第であります。

当時、大学出身者の調理師は少なく見習い奉公と言う言葉がまだ生きていた時代でしたから周囲の者はいつまで続くやらと影口を言われたものでした。日本料理の四季折々の素材を使用して作る技術(修業)の社会では、中卒十五才が殆んどでしたから年下の先輩が多い中で随分と辛苦を味わいました。店を開業し人の心の痛みが分かる人間になる事を指導する立場になり、日本料理の社会も昨今では世界の素材を和食風にアレンジするようになり常に日進月歩であり、生涯が学習(修業)である事を思い知らされる今日この頃です。

今後の茨城県同窓会の益々の御発展をお祈り申し上げます。

◆県西地区副会長

梁谷 泰雄 (総和町)
安禅寺住職
昭和三十六年仏教卒

駒澤大学同窓会茨城県支部設立総会が無

事終了し、次の総会迄、各地区において事業が展開される事になるわけですが、我が県西地区では、昨年より境町において二度新年会が開催されておりますが、出席者はと云えばやはり多いと云えるものではございません。県西地区は電車の便も悪くどうしても車を利用する為、酒を飲む席が仲々むずかしいと云う現状。古河を中心とする地区。下館を中心とする地区くらいに分けて活動をしてゆくようにすれば少し活発になるかと思われまふ。そして大きなイベント等の時には合同で開催するという事です。もう一つ会員の拡大という課題があります。現在会員になつて居る方が何あるたびに一人ずつ知つて居る方を連れて来てくれればおのずと会員は増えるわけで、どうせやるなら楽しい方がよいのではないのでしょうか?皆さん駒大ファミリーを増やしましょう。

◆鹿行地区副会長

高橋 量光 (麻生町)
石梁山浄泉寺代表役員
昭和三十三年仏教卒

このたび駒澤大学茨城県同窓会が設立されましたことを皆様とともに心からお慶びを申し上げます。

さて、ご承知のように本同窓会は、県内五つのブロックから構成されております。今後は、各地区ごとに幅広い年齢をもつ会員相互の親睦が深められる事業の開催を重点として、少なからず地域社会の発展に貢献できるような活動に結びついていくならば誠にありがたいと考えます。

そういう意味においても、特に鹿行地区の皆さんには是非声をかけあつて、それぞれの立場で活躍されている同窓の方が一人でも多く仲間に加わっていただけたら幸いです。友情の輪が、さらに大きく広がっていくことを切望いたします。

会員の声

駒澤大学茨城県同窓会の設立に臨み

《小さく生んで大きく育てる》

竹内 昌信 (美野里町)
石岡施福林会代表
昭和四十一年仏教卒

一九九六年六月二十八日、一通のファックスが私の手元に届いた。差し出し相手は、石岡市内に勤務する荻沼雅光氏・岩城正志両名が代表世話人として、「駒澤大学石岡施福林会」の交流会の案内文書であった。案内文書を手にした私にとり、駒澤大学という名のイメージは、宗門僧侶として資格を得るためにも、ごく当たり前の響きであり、駒澤大学仏教学部卒業生として本山修行、やがて一寺院の住職というレベルが大半であり、宗門界に駒澤の名は日常茶飯のこと…。しかし、一枚のファックスから新たな感覚を得たのは私だけではなかつたとも思われる。「規模は小さくても、同窓の仲間が集う機会・・・」「母校の記憶が薄れてきた」思い起こせば、卒業以来、我が学び舎に足を向けることも遠のき、スポーツ界で活躍する姿を新聞などのマスコミで目にしたとき、脳裏に僅かな思いで浮かぶ程度までに過ぎた母校の存在になりつつある時期にたとえ、小さくても同窓の仲間が…。言葉に飛びついたことは事実であり、交流会当日、石岡市内のホテルに胸弾ませ参加。受付で手渡された「駒澤大学石岡施福林会」名簿には十五名の男女の名を連ねており、勿論、卒業年度、職種は異なつて居る。初めて言葉を交わした同窓生との母校の思い出話に、大いなる時代のギャップを抱きながら、それぞれの時代の話題に、時の経つのも忘れさせるひとときを過ごし、今までマンネリ化していた、母校を蘇らせる機会を企画された両名に感謝の念を抱きつつ、

会場を後にした。ただ一点予想に反したことは、地区の代表に祭り上げられたこと。また昭和四十一年三月卒業が参会者の中で最年長であったことが運命づけたのである。

地区の親睦会を重ねること数回、やがて県西地区の役員面々より、茨城県全体の駒澤大学同窓会の話題が進められ、私個人としては、すべてを関係発起人の方々にお願ひし、労せずして全国二十六番目の「駒澤大学茨城県同窓会設立総会」を迎えることができ、同窓というすべての時空と壁を越えた「仲間」との歓談し、今更のごとく母校の歴史の重層感を肌で感じる「茨城で、いちばん永い日」を堪能したのですが、この日を迎えるまでの、関係責任者の皆様のご苦勞は筆舌に表すことのできない、時間と労力であつたことに、ただただ感謝申し上げる次第です。

今後は、松浦好道同窓会長を頂点として、県内約四〇〇〇名の同志と一丸となり、親睦と研鑽、さらには母校の発展に寄与できる団体に成長することを期待する次第です。それには、まず、県内五ブロックの基礎を盤石なものにせねばならず、また地区の一声運動による、会員相互の連絡に力を注ぐ必要が望まれます。

私自身、何の力にもなれないとは思いますが、地域の同窓会員と意見交換を密にし、魅力ある駒澤大学茨城同窓会に発展させる所存であり、モットーは「小さく生んで大きく育てる」ことに心掛けたと思う昨今である。

設立総会に参加して

小堀 茂樹 (水戸市)

昭和五十七年経済卒

六月二十二日、私達駒澤大学同窓生の気持ちを象徴するような晴天の中、土浦市のホテルマロウド筑波で盛大な設立総会が開催された。準備委員の一人として、微力ながら

ら開催に向けて準備を進めて行つたわけだが、正直行つて予想通りの参加者が集まっていたか少し心配であった。しかし、それどころか、大勢の参加者を得ることができて、皆様に感謝するばかりであります。

準備にあつては、何回か会合を持ち、住所の確認やら、住所名簿の作成やら、ダイレクトメールの発送やら、と仕事の合間に進めていきましたが、順調に事が運んだことは駒澤大学の人間性、人の心を大切にすることが教育精神にあるような気がします。(私は他の準備委員の方に比べて余りお手伝いが出なかつたのですが)

総会は、松浦好道設立準備委員長の挨拶で幕を開け、松田文雄総長、来賓の橋本 昌 県知事、助川弘之土浦市長の祝辞を頂きました。議事では会則、事業計画、収支予算、役員等が審議されましたが満場一致で承認を得た。初代会長(茨城県)には松浦好道氏が選出されました。総会終了後は、文化講演会に移り、大勢の一般参加者をお迎えして、中畑 清氏が「私の歩んだ野球人生」をテーマにウィットに富んだ楽しいおしゃべりで、会場を沸かした。続いて、福岡政行氏による「ボランティアのすすめ」についての講演を頂いた。

その後、中畑・福岡両氏によるたいへん楽しいトークとチャリティオークションを開いた。そして、夕刻には交流パーティ会場に移り、大変なごやが雰囲気の中参加した人々は酒を飲み交わしながら楽しい一時を過ごし次回水戸での再会を約束して散会しました。

今後、支部としては駒澤大学の名声を更に高めるとともに、同窓生間の親睦、後輩への支援等のために活動して行きたいと思ひます。また、文化講演会やボランティア活動など地域に貢献できる「茨城駒澤会」を展開して行きたいと考えています。

最後になりましたが、「駒澤大学茨城県同窓会」設立のお祝いと会員一同のご活躍、ご発展を祈念いたします。

同窓会に出席して

酒井 静江 (古河市)

昭和五十三年短国卒

短大を卒業して十数年が過ぎる学生時代が懐しく思い出されます。先日、同窓会の茨城県支部の案内をいただき、県内の親しい同窓生もいないので不安でしたが思いきって出席する事に致しました。出席してみると思った通り初対面の方ばかりでしたが、在籍していた頃が同じだったり、現在住んでいる所が近くだったりして会話がはずみ同窓生という懐かしさと同県人という親しみさで初めの不安はすぐになくなり楽しい一日を過ごすことが出来ました。

又、新しい友人が増え大変嬉しく思っています。ただ少し残念だった事は女性出席者が少なかったということです。身近かに同窓生の知り合いもなく出席する勇気がない方が多くいらっしゃるのではと思ひます。新しい友人が出来るということを楽しみに、ぜひたくさんの方に出席してほしいと思ひます。次回の水戸で行なわれる同窓会の案内を楽しみに待ちたいと思ひます。

東京支部

設立総会に参加して

神原 俊行 (竜ヶ崎市)

昭和五十四年経営卒

同窓会東京支部設立総会が茨城県同窓会から二週間後の七月五日に開催されました。茨城県から田中大孝副会長、南波事務局長他十五名が参加してまいりました。

会場の品川プリンスホテルの会場にはOB約千二百名、又、各地区同窓会支部代表も多数御来賓されており、大盛況でございました。会長には、大畑直人氏(昭和二十九年文学部卒・オンキョー社長)が就任され、そして「出逢いとよるこび」というテーマで、大

副会長、後藤光男氏(野村企業情報相談役)、関谷亜矢子氏(日本テレビアナウンサー)、中畑 清氏(東京支部副会長・元読売ジャイアンツ)と司会には藤井 暁氏(テレビ朝日アナウンサー)によるパネルディスカッションがありました。又、懇親会ではチャリティーオークション、本年度の全国大学の部金賞のプラスバンドの演奏等、楽しいOBの交流が生まれました。茨城県同窓会も東京に負けず、もっと盛りあげていきたいと思ひます。今後も東京支部とは、積極的に交流を深めていきたいと考えています。すばらしいこれからの支部間の交流が楽しみです。

イベント紹介
楽しい事盛りだくさん
「バーベキュー大会」決定!

秋も深まってまいりましたが会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか? さて、この度、駒澤大学茨城県同窓会の発足を期に会員の皆様一人一人と親睦を深めたいと思ひ、バーベキュー大会を行う事になりました。(県央地区・水戸地区主催)会員の皆様の多数の御参加をお待ちしています。当日は、子供のためのゲーム大会を用意しています。持込みも大歓迎! 御家族参加大歓迎!

※十月七日までに御連絡下さい。

日時 十月十二日(日)
午前十時~午後三時(予定)
場所 ふれあいの里
常北町上入野四三八四
電話 〇二九(二八八)五五〇五
参加費 一人(三〇〇〇円) 子供無料
連絡先 〇二九(二四七)六一六六
(県央地区 小野瀬 真)
〇二九(二五二)二九四〇
(吹野 明)

箱根駅伝の応援と 新年OB交流会のお知らせ

平成七年より毎年一月三日午後から大手町で(毎年場所は各大学指定され変更される)箱根駅伝を有志二十名前後で応援しております。今年の陸上部の復路優勝は快挙でございました。茨城県同窓会に御来賓頂きましたと、選手は来年の更なる飛躍を目ざして厳しいトレーニングを行なっているとお聞きしました。また茨城県同窓会から、のぼり旗二十本が新たに寄贈されました。

当日は、新年会を兼ねましたOBの交流会を予定しております。 来年は応援指導部ブルーベガサスの隣で応援する予定です。 OBの皆様には、お誘い合わせの上ふるって御参加を楽しみにしております。 御連絡をお待ちしております。

連絡先 十一月中旬以降に詳細決定
竜ヶ崎市川原代町五二二一四
〇二九七(六六)七五一四
(神原 俊行)



箱根駅伝の応援のぼりが渡される

トピックス

第六十六回日本学生対抗選手権大会
九月十四日、東京国立競技場で
男子ハーフマラソン優勝
(二時間四分二十二秒)
藤田 敦史(三年)

茨城県同窓会設立総会フォーカス



総会会場「ホテルマロウド筑波」土浦市



会場 正面玄関でOBのお迎え風景



中畑 清氏 記念講演「私の歩んだ野球人生」



助川 弘之 土浦市長 ごあいさつ



橋本 昌 茨城県知事と中畑 清氏



福岡 正行氏
記念講演「ボランティアのすすめ」



オークション風景（福岡氏、中畑氏）



オークション風景（藤井 暁氏、中畑氏）
「松井のバット」とびだす



交流パーティ風景 鏡割り



松田 文雄総長 ごあいさつ



ブルーペガサス演技「応援歌」



「若さいっぱい」ブルーペガサス演技



交流パーティー風景



「軽快な音楽」ブルーペガサス演技



校歌大合唱「老いも若きもスクラム組んで・・・」



二年後水戸でお会いしましょう「笑顔でお待ちしております。」

「創業は易く、守成は難し」



南波 哲龍
事務局長

昭和三十六年仏教卒

同志の結束を結集して、昼夜を問わず情報交換しながら、密なる連絡を取り合い、献身的な努力を積み重ねて一年...

母校・駒大茨城県同窓会が待望の内に発足し、営々と継続される航海に、駒大卒の帆柱を押し立てて、当面二年間の運営を目的として、基礎固めの同窓活動に出発した。

会員ひとり一人が、駒大卒の一員としての自覚、母校に誇りや郷愁を感じる同年代の仲間たちが、誘い合いつながり、楽しく集い「確かな第一歩」を確認し合いつながり、五三〇名の同志によって、同窓会活動を展開することとなりました。

連絡等、不徹底で今回は未加入のままの卒業の志も多く居りますが、それはそれとして共々に、設立の慶びを分かち合いたいと存じます。

私事の自己紹介になりますが、昭和三十六年三月、仏教科を卒業した者です。学生時代は、弁論部に四年間、空手道部一年半、軟式野球同好会三年、そして学友会の審議会委員長として二年、学内外、そして渋谷道玄坂等を飛び歩いたものでした。

校旗を押し立てて安保闘争にも見学参加、新聞社に仏教系大学の出陣してスクラブされ、恩師「保坂玉泉先生」当時の大山大山学生課長さん等に迷惑を掛けると共に、厳重注意されたことも、今は昔日を懐かしむ思い出の一つです。

この度の本会設立に当たって、準備委員会の事務局長を仰せつかって六ヶ月、引き続き同窓会の事務局を担当することになりました。浅学非才、任の重みを感じますが、年の功と設立に係った関係から、引き受けることといたしました。この三月、茨城県職員として三六年、児童福祉行政一筋に奉職、充実した日々を連続していましたが、無事退職。

本音を申せば、やや体も案になり、暇もでき、お前が適任と言うことで引受けざるを得なかったと思っております。さらには、学生時代の食料の殆どが、茨城産の米であったと言ったこと、生まれは茨城、本籍は群馬、自坊も群馬の山寺、仕事は茨城・有為転馬の渡り鳥人生、本会の役割も恩返しに積りてると自意識過剰、古風な考え方の持ち主でもあります。

幸い、各ブロックに至る、若き同志の声援と実働の協力も約束されており、何の心配もない事務局体制ですので、会則を順守しながら、事務局の在り方と会の運営に、万全を期して参りたいと存じます。よろしくお願ひ致します。

「創業は易く、守成は難し」

本会設立の喜びはさて置き、今後の本会運営の問題について、会員諸兄姉のご協力とアドバイスをお寄せ頂きたくお願ひする次第です。

冒頭に記した標題は、ご存じの通り、唐の名皇帝「太宗」の名言であります。

いまさら「創業守成」という名書の講義をするつもりはありませんが、改めて解説してみると、本会の運営と方向を示唆してくれる名言とも言えます。

書物の解釈によれば「物事を創生することも大変だが、失敗しないように継続し発展させていくことは、もっと難しい。」という意味であると説明しています。

名君として一國を治め、重臣たちに今を乗り切つて行く方便として、論じた言葉であるだけに重みがあり、肝に命じて任に当たりたいと、改めて強く感ずる次第...

このことから、本会運営の礎を会員諸兄姉の意見に求め、遺憾のないよう展開したいと念じます。わが同窓会茨城丸は、果てなく広く、刻々と変化する大海原を、会則に照らし航海中でありま。今は喜びに踊っています。

しかし、常に平穏で波静かとはばかりには行きません。快適な航海もあれば、嵐で荒れ狂う大波の日もあり、木の葉のごとく翻弄される日々もありましよう。

どんな時でも、方向を見失うことなく、やや漂流することがあっても、座礁や遭難することなく「同窓の和」という航海を継続発展させて行くために、会員諸兄姉の積極的な意見と参加を、期待をもってお願ひするところであります。

一、事務局の運営体制について

① 基本的には、県央地区が担当して行きます。事務局処理上他に人手の必要な時は、各地区の役員に呼びかけます。できる限り、ばらばらな地区活動にならないよう、一本化を図っていきます。

② 意見等については、事務局へ直接でも、地区の役員に連絡して頂いてもよいと思っております。

③ 渉外、文書処理、会員名簿等の保管整理業務は、事務局で処理し、引継ぐまで大切に保管しておきます。

二、会計処理について

① 設立総会での会計処理は、七月二十一日の役員会で承認されました。設立総会までの会計監査は、各地区副会長によって、承認決議としました。

本会監事役員の監査は、設立時と切り離して、本会運営に伴う会計一般を扱い、監査処理方を願ひすることとしております。

② スタートした本会の会計は、事務局を中心に県央地区にて処理します。通常の会計報告は、会則に順じ、毎年三月三十一日までに監査を受け

て、会報を通して、中間報告を行ないます。役員改選時の通常総会の折、会則に照らし、二年分を一括報告、承認を受けることとします。

③ 途中加入の会員会費の納入は、現事務局で受けつけます。

三、地区活動のあり方について

① 地区活動の一つとしてブロック会員の集まりは、大切であります。地区役員を中心に、余り小さくまとまらず、活性化を期待します。

地区副会長は、常に座長の役割をお願いしたいところであり、このためには地区選出の常任理事の補佐は、絶対必要であります。

② 会費の中から、地区活動費として一部を還付することについては、十月末の役員会で決定したいと考えます。

四、事業の推進について

① 役員会議
事業計画
平成九年度、二回を計画。十月と翌年の三、四月に実施。

② 地域交流会
役員会議前後に、地区役員が集まり、会全体集まりを計画する。

③ 大学本部及び近県同窓会との支援交流
予算の中で、随時、連絡調整を密にし、支援交流を行う。

④ 後輩の活動に関する支援
平成九年度は、総会の席上での事業に留める。平成十年度は、役員会で決定する。

⑤ 文化講演会
平成十年度に実施するかどうか、役員会に諮る。

⑥ 広報活動
会員名簿について
予算に合わせて、整理発刊する。

活動内容の伝達を責任の主旨におき、年一回発刊する。

広報活動には、各地区の役員方に協力して頂く。特に、広報委員等を定めない。

基本的には、事務局で取り扱おうが、必要に応じて各地区で随時行い、費用は事務局に請求する。

・交通費等
本会の代表として、参加する他団体の行事に参加する時は旅費等、打切り費用を支払う。併せて、本会の運営のために会議・活動等を行う場合についても、同様としたい。

・十月の役員会で承認を受ける事としたい。

以上、今までの会議での意見、影の声を記しましたが、本会の運営のためには、欠くことのないアドバースでもあります。

航海を始めたばかりの茨城丸は、一年に一度、各地区の港に寄港し、新しい航海術を身につけた役員と交代します。

常に「人の和」と「人生の摂理」に基づいた航路を発見しつつ、静かに、のんびりと大いに楽しく、母校・駒澤大学と言う母船に従い、時には先導をし、時には後押しをしながら大海原を航行して参りたいと願っております。

会員諸兄姉の一層の弥栄を...

《事務局よりお知らせ》

※七月二十一日(月)水戸市において第一回理事会が開かれました。

《議題》

- 1 設立総会の会計報告と承認
- 2 会報発行について
(総会の報告、今後の計画)
- 3 会員名簿作成について
話し合いがなされました。以上については、第一回会報発行で会員に告知致します。

※第二回理事会開催予定

十月二十五日(土)
県立青少年会館三階、中研修室
午後三時～五時予定
住所 〒三一〇 水戸市緑町一―一十八
電話 〇二九(二二二)一三八八

《議題》

- 1 今後の事務局運営について
- 2 各地区の運営と新会員の募集について
- 3 今後の事業計画
- 4 その他
役員の皆様、ご出席の程宜しくお願ひします。

※住所等が変わった時は...

卒業後、住所、氏名、勤務先が変わった時は、本部事務局および各地区連絡先までご連絡下さいませようお願ひ申し上げます。

※会費納入のお願い

会費(二年間で五〇〇〇円)未納の会員の皆様には、同封の払込み用紙(郵便局)で御送金、もしくは、事務局本部へ御連絡下さい。

※会報愛称募集中

ただいま、この会報の愛称を募集中です。親しみやすい名前を考えて、ぜひ応募して下さい。採用者には駒大テレフォンカードを贈呈いたします。ハガキで事務局本部まで応募して下さい。

※イベント大募集

会員の皆様は主役です。ゴルフコンペ、花見、釣り大会、キャンプ、旅行、講演会、研修会、参禅会等々、イベント大募集、会員の皆様のアイデア、企画をお待ちしております。

事務局本部、もしくは各地区連絡先へ御連絡下さい。

「茨城県同窓会」

入会の呼びかけ

現在約四千名の卒業生の皆様は県内におられます。又毎年新たに社会に出る新卒者、県外からの移動で茨城県に来るOBも多数あることと思いま

今回、設立された同窓会には、五三〇名の加入がございました。御友人の方でまだ知らない方も多数いらっしゃるかと存じます。堅苦しい会ではないです。年齢と学歴を超えた楽しい異業種交流会です。遊びあり、パーティーあり、イベントも募集しております。

又、各地区では交流会も行なわれております。どうぞお気軽にお誘い合わせの上御入会下さい。お問い合わせ、御質問等何なりと事務局本部、各地区連絡先に御連絡下さい。

駒澤大学茨城県同窓会連絡先

〔事務局本部〕 南波哲龍

住所 茨城県那珂郡後台二二八二―一
電話 〇二九四(七二)二九八五
ファックス 〇二九(二九五)五四九九

〔県央地区〕 吹野 明

住所 水戸市河和田三―二五二七―一〇
電話 〇二九(二五二)二九四〇

〔県北地区〕 吉川道隆

住所 高萩市安良川六八六
電話 〇二九三(二四)〇八三三
ファックス 〇二九二(二二)三三四〇

〔鹿行地区〕 高橋量光

住所 行方郡麻生町石神一―一八
電話 〇二九九(七三)三七四六

〔県南地区〕 神原俊行

住所 竜ヶ崎市川原代町五二―三―一四
電話 〇二九七(六六)七五二四

〔県西地区〕 染谷秀和

住所 猿島郡境町九五七―一五
電話 〇二八〇(八七)〇四一八
ファックス 〇二八〇(八七)〇八二二

〔編集後記〕
編集責任者・事務局長 南波哲龍

〔編集後記〕

記念すべき、茨城県同窓会会報、創刊号を編集作業にあたり、設立総会のあの感動を少しでも伝えることが出来たらとスタッフ一同紙面作りを励んでまいりました。

茨城県に同窓会という場が出来て未来に無限に広がる可能性を感じながら、すばらしい会になりました。皆様お互いに多くの方々と出逢いが財産になりますよう祈るばかりです。

T・K